

久我山だより

令和元年11月29日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashou>

『夢に向かって頑張ること』～オリンピック・パラリンピック講演会～

副校長 瀬川 雅之

「あっきー！」体育館に子どもたちの元気な声が響きわたりました。「あっきー」と呼ばれたこの方は、サッカーのJリーグ史上初となる三冠を達成した鹿島アントラーズの中心選手で不動のセンターバックとして活躍し、日本代表として2度のワールドカップを経験した“闘将”秋田 豊さん。

55年前の東京オリンピックの開会式と同じ日である10月10日(木)に講演会に来ていただき『夢に向かって頑張ること』をテーマに話をさせていただきました。

小学生時代は、野球。中学生時代は、夏に野球・冬にはサッカーをしていたそうです。当時は、サッカーより野球の方が好きで、王選手のような野球選手になりたかったそうです。そんな秋田さんは、全国でもサッカーの強い地元愛知の高校に誘われ、体力アップのために、毎日砂場で対一の練習をし、足腰が強くなったそうです。そうした中、東西の対抗戦にも出場し自信をつけ高校二年生の時に「サッカーで食べていこうと決めました。」と話されました。

しかし、サッカーを職業にするのは簡単なことではない。どうすればよいのか『考えた』結果、「人と同じではダメ。何かずば抜けた特徴もたないと・・・」秀でた足元の技術があったわけでもない秋田さんが出した答えが『ヘディング』だったそうです。それからは、毎日50本以上ものヘディングを欠かさず練習をして力を身に付けたということです。

その自慢のヘディングでも、自分より高く跳ぶ選手がいて勝てなかった時、高く跳ぶために何をすればよいか考え、筋肉トレーニングでジャンプ力をつけることで自分の特徴であるヘディングの技を磨いていきました。

秋田さんは、「夢(目標)をもつと、考えることでどのように行動すればよいのかが明確になり、集中して取り組み、楽しく過ごすことができます。」と熱く語られました。

そんな、秋田さんも鹿島アントラーズ時代に大きく落ち込んだことがあったそうです。それは、足のけがで大好きなサッカーが半年間できなかつたことです。そんな時に身近な人からの言葉掛けで、落ち込んで下を向いているのではなく、気持ちを前向きにもつ大切さに気付かされたそうです。

「こうした経験があったからこそ、日本代表選手になるという夢を叶えることができたのだと思います。」と力強く語られました。

最後に、本田圭佑選手も、小学校の卒業文集に『ヨーロッパのセリエAに入団します。そして、レギュラーになって、10番で活躍します。』と書いていたことを紹介されて、夢をもって、頑張ってきたからこそ、自分の夢を叶えることができたと締めくくりました。

【児童の質問】

Q (秋田さんの)今の夢は、なんですか？

A 日本代表の監督になることです。

今なお、夢に向かって、一つひとつのことに全力で取り組む姿勢を子どもたちに示してくださいました。

